

フードドライブせいらん



晴嵐学区で5年前から「みんなの食堂」を開催しているNPO法人CASN（代表理事 谷口久美子）が、6月3日から『フードドライブせいらん』を始めました。「みんなの食堂」では、本当に困っている子どもたちへという思いはあるものの、現実にはそのような子どもを特定することの難しさが分かってきました。逆に門戸を広くして、来たい子ども、大人、高齢者も安らぎの時間が共有できれば、それは大きな目標です。門戸を広くした食堂に来る子どもの中には、しんどそうな子どもや大人もいることが分かってきました。CASNでは大人数が苦手な子どもたちには、日を変えて学習支援と調理実習の場を設けています。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う3月からの休校園、自宅待機・自粛等によるストレスを貯める子どもや、親の雇い止めによる急激な日々の生活の変化に直面している家庭もあります。このような事態を目の当たりにして『フードドライブせいらん』をCASNが始めました。



5月には給食停止のために不要となる食材をフードバンクびわ湖、社会福祉協議会、コープ滋賀を通じて手に入れることができました。ここで素晴らしいのは、長年にわたる「みんなの食堂」の活動実績のおかげで、CASNはお困りの方にすみやかに連絡を取ることができたことです。一部の方は取りに来られ、また一部の方には配達し、たくさんあった食材をロスすることなく、有效地に使っていただくことができました。サポートを必要とする方は、書類上のひとり親、低所得、親が失業中などだけでは分からぬのが現状です。

『フードドライブせいらん』の開催は晴嵐自治連合会の協力で広く自治会員にもお知らせしています。写真は『フードドライブせいらん』の当日の様子です。学生さんや地域の方がスタッフとして関わってくださっています。 晴嵐地区 楠松 淳

CASN（カズン）: Children's Action Support Network

個人情報の取り扱いにご注意ください！

私たち民生委員児童委員は、居住者情報や高齢者・障がい者の情報など、多くの個人情報を接しています。情報の取り扱いや管理に充分に留意してください。また台帳を持ち歩いたりコピーをすることは、絶対にしないようお願いします。

★編集後記★ 新型コロナウイルスの感染が拡がる中で、民生委員・児童委員としての活動の限界やその在り方などを深く考えさせられました。この第18号では、少しでも皆様のお役に立てばと“新型コロナ感染症に対する考え方”を特集として、いろいろな方面の方々にお聞きしています。それぞれの地域事情や考え方があり、「これが最善」というものはないと思いますが、指針の一つになれば幸いかと思います。

人は歴史の中で「天然痘」や「チフス」、「ペスト」などいろいろな疫病に立ち向かい、これを鎮静化させており、いずれこの病も駆逐されることでしょう。これを契機に今一度私たちの活動の原点を振り返り、“何が必要か、何を為すべきか”を考えたいと思います。（和邇地区 小澤）

おおつ民児協連だより

新型コロナ禍における民生委員児童委員活動

5月25日に全国的な緊急事態宣言は解除されましたが、7月に入って、新規感染者数が再び増加し、全国地域にも拡散し始めました。しかし、再び全面的な自粛は経済活動、社会活動に大きなダメージを与えるため、感染拡大を食い止めながら可能な範囲で経済活動、社会活動を再開するという、非常に難しい選択を迫られています。このような状況の中において、見守りを必要とする多くの人々が待っておられます。私たち民生委員児童委員も一緒にコロナに立ち向かっていきたいと思います。見守り対象者は主にご高齢であり、障がいや持病をお持ちの方も多いため、私たち自身が感染源にならないように慎重に行動しなければなりません。今回、全民児連から示された活動ガイドラインに加えて、大津市福祉政策課・長寿政策課、大津市社協等から、具体的な活動に関してアドバイスをいただきましたので紹介いたします。（紙面の都合上一部抜粋になります）

共通・基本的配慮

- 自分の体調（体温など）に異常があるときは活動を控える
- 3密（密閉、密集、密接）の環境を避ける
- ソーシャルディスタンス（1.5m以上）の確保
- 人に接する、会話するときはマスクを着用する
- 会議やイベント会場に入室するときは手指を消毒する



会議やイベントの開催

- 会場使用ルールの遵守
- 人数は会場定員の1/2以下とし、密集を避け、必要により分散開催とする
- テーブル、椅子、ドアノブなどの事前消毒
- 会場の常時換気（換気扇、窓の全開）
- 入室時はマスク着用、手指消毒の実施
- 参加者の記帳（参加者氏名、連絡先、会場場所、日時）
- 大声を出す内容や人と接触する内容は控える
- 会食は控える



訪問、相談活動

- 事前に対象者の体調を確認すること
- 手紙や電話、FAX、メールなどを活用し、面談の時間を極力少なくする
- 訪問は玄関先で対応、短時間とする
- 相談は相談室を準備して、換気やテーブル、イスなどの消毒を実施する
- マスクの着用、対面で会話するときは2m程度の距離を取る

*参考資料

- ・会長メッセージ「人と人をつなぐ私たちの強さ」全民児連（令和2年5月7日）
- ・「地域活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応」大津市社協（令和2年6月）
- ・「コロナとのつきあい方 滋賀プラン」に基づく7月10日以降の対応について 滋賀県（令和2年7月9日）

委員活動中に新型コロナウィルス感染症にかかった場合も、活動保険の保障対象になりました。
(令和2年2月1日より)

大津市社協の生活福祉資金特例貸付

「コロナ以前は普通に生活できた人がほとんど」

大津市社協 相談支援課

コロナ禍のもとで生活が困窮する世帯を支えるため、令和2年3月下旬に始まったのが生活福祉資金の特例貸付です。窓口の市社協には当初から申請が殺到し、7月16日現在で申請件数2782件、貸付総額は約9億円となります。今も相談が一日に40件以上ある状況です。

特例貸付は、コロナ対策における国の緊急対応策です。個人向け特例貸付として緊急小口資金は、10～20万円を1回利用可能で無利子、1年後から返済が始まり2年内に返済します。総合支援資金は、15～20万円を3か月借りることが出来、1回のみ延長が可能で10年以内で返済する制度です。申請期間は、令和2年9月末までとなっています。

今回の特例貸付を申請された方の声を一部紹介します。文面から苦しい暮らしの状況が伝わってきます。

新型コロナウイルスの影響で会社の業績が悪化し解雇となつたため、また、特例貸付を申し立てたが会社側が自主退職させたために給付しても「まだ生活していくはいため」

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により会社から休業の要請があり、会社としても休業保証を行う資金もない状態です。

新型コロナウイルスの影響により、仕事が全部キヤンセしとなつたため。

新型コロナウイルスの影響により、貸切バスの運行が減少したことにより、収入が減り、緊急小口資金の貸付を利用していたが、貸切バスの運行再開の目処が立たず、数ヶ月先までの収入回復の見込みがなく、総合支援資金の貸付を申し込んでおことした。

新型コロナウイルスの影響で会社の業績の悪化の為、収入の減少で雇止め

市社協では、相談者に寄り添って生活福祉資金の相談に乗ってきましたが、コロナ禍では想定をはるかに超えた相談数と、感染対策も考慮して、郵送と電話を中心とした受付対応となりました。現場で感じたことは、市民の暮らしにコロナ禍の影響が大きく出ているということです。新型コロナの感染拡大は、働いて普通に生活できた人の中でも、飲食業、ホテル、宿泊等の観光業、タクシーや自営業や建設業を中心とした多くの暮らしを直撃しています。

滋賀県は、コロナの感染者が増加している中、7月17日にコロナとの付き合い方の滋賀プランを「注意ステージ」から、「警戒ステージ」に引き上げ、感染予防対策の徹底を県民に呼び掛けています。第2波とも言われる感染の拡大は、地域経済に再びダメージを与えていきます。今後も給料の減少が続き、休業や失業状態にある方等の雇用の回復が遅れることが危惧されます。

市社協では、生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援機関として、特例貸付の借受人の中で、相談を希望される方を対象にして、失業して一人では就職活動が出来ない、債務整理等が出来ないという方への息の長いサポートを始めました。

民生委員児童委員の皆さまへのお願いは、コロナ禍で特例貸付という制度の利用者がおられたことを知りいただき、地域で生活にお困りの方がいらっしゃいましたら市社協まで、つないでいただきますようお願いします。

(作成者：山口、山崎、奥野)

避難と新型コロナ対策

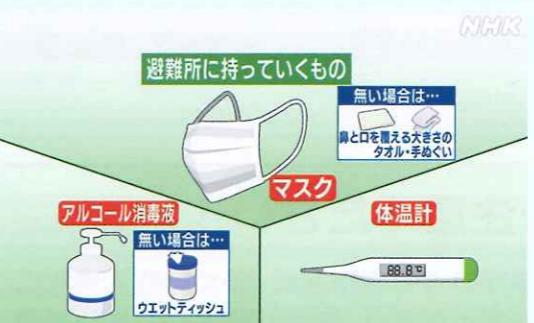
今年の梅雨は異常な大雨が続きました。災害が発生する恐れや実際に災害が発生し避難となると、避難所でのコロナ感染対策が重要な課題となります。

「分散避難」を心がけて、「在宅避難」も考えて！



災害のおそれがあるときに、これまでのように「避難所」に多くの人が密集すると、新型コロナウイルス感染が広がるリスクがあります。これからは、「避難所」への避難以外にも、「親戚・知人宅」「ホテル」「在宅避難」「車中泊」などさまざまな避難先に、地域の人たちが分散して避難することが大切です。ただ、周囲に不安があれば、ためらわず避難所に移動して下さい。

避難所に行くことになったら 何に気をつける？ 何を持って行く？



■マスク ■アルコール消毒液 ■体温計
マスクを持っていない場合は、鼻と口を覆える大きさのタオルや手ぬぐいなども代わりに使えます。アルコール消毒液がない場合、ウエットティッシュも使えます。マスクなどは自治体で備蓄していないところが多く、できれば自分で用意しておきましょう。また携帯用消毒液もあると助かります。

避難所に入ったら



大事なのは「密閉・密集・密接」の3つの密を避けることです。「密集」「密接」を防ぐためには、人と向かい合わせではなく、背を向けて座るようにしたり、段ボールなどで間仕切りを作ったりすると効果があります。せきやくしゃみなどによる飛沫感染の防止にもなります。もちろん手洗い消毒の徹底や毎日の体調のチェックも欠かせない大事なことです。

— 資料参照：NHKウェブサイト —